

かがわ総文祭2025 郷土芸能部門玄関装飾について

香川県立農業経営高等学校環境園芸科

環境デザイン部門3年B組専攻生

壹【玄関装飾のテーマについて】

郷土芸能部門にピッタリ合う、日本の伝統芸能のひとつである「能楽」の舞台をイメージして寄せ植えを作りました。

貳【能楽の舞台ってどんなの？つくりを解説】

能舞台は、本舞台、橋掛がり、後座（あとざ）、地謡座（じうたいざ）からなっています。また、能の演出にその周囲の白洲（しらす）やその上に立てられた松（一ノ・二ノ松・三ノ松）が利用される場合があります。

参【なぜ選んだの？植栽の選定理由】

イ 松と竹

能舞台の奥の「鏡板」には、正面に老松、右側面に若竹の絵が描かれていることが多いからです。

ロ 千両

江戸時代の歌舞伎役者の中には1年間の出演料が千両にも達する役者もあり、「千両役者」と呼ばれました。そこから転じて、格式が高く技芸の優れた俳優を指す現在の意味になったと言われています。出場高校生にピッタリの植物です。

ハ トクサ

トクサは金属を磨くと光沢が増すと言われ、金と呼ぶ縁起の良いものとされています。また、まっすぐに伸びることから成長や繁栄に繋がる縁起物としても扱われてきており、郷土芸能部門の成功とみんなのますますのご活躍を祈念して植えることにしました。

肆【装飾の工夫】

イ 玄関の右側に設置する植木鉢

鏡板の老松をイメージした松。鏡板に描かれる老松に見せるため、5月から針金かけのかわりに麻ひもを使って樹形を整えてきました。なんとか間に合っ
てほっとしています。もちろん、剪定も自分たちで行っています。土面は檜舞

台の色調にあわせて、花崗土を敷き詰めました。

ロ 玄関の左側に設置する植木鉢

能舞台の橋掛りのイメージ。前面の白州に植えられた3本の若松を竹、千両、トクサで表現してみました。土面は能舞台外周の「白洲」をイメージして、白玉砂利を敷き詰めました。

ハ ウェルカムボード

出場高校生にとって今回の総文祭は「晴れの舞台」。晴れの舞台の語源は「檜舞台」。それはすべて檜で作られた能舞台のことです。

檜は昔から高価であるため大きな劇場しか檜舞台を作ることができませんでした。そのため大きな舞台に立つことを「檜舞台を踏む」といいます。

出場校がこの場所にたどり着くまでの日々の努力に敬意を表するとともに、みんなの高まる鼓動をキャッチフレーズ「いざ檜舞台」で表現してみました。

ニ かがわ総文祭 2025 のマスコットキャラクター「さぬぽん」看板製作

日本3大うちわ生産地である丸亀市のPRを兼ねて、さぬぽんうちわを描きました。

ホ 思い

植栽につかったものは本校の学び舎に植えられているものを今回株分けしたものや環境園芸科環境デザイン専攻生が管理している盆栽です。

日ごろの実習の成果を見ていただくため「オールNOUKEI」で製作しています。